

令和7年11月5日

報道機関 各位

**国内初！「2025年度ソーラーウィーク大賞リサイクル事業特別賞」を受賞しました
～ 太陽光パネルの高度リサイクルにより、サーキュラーエコノミーの実現に貢献 ～**

株式会社新菱（三菱ケミカルグループ、本社：福岡県北九州市、代表者：代表取締役社長 土山正明、以下「当社」）は、この度、一般社団法人太陽光発電協会（JPEA）主催の「**2025年度ソーラーウィーク大賞**」において、「**リサイクル事業特別賞**」を受賞し、11月5日にJPEAが開催するレセプションにて表彰いただきます。

【受賞について】

「ソーラーウィーク大賞」は、地域に貢献し、地域から望まれ、他の模範ともなる太陽光発電の普及拡大に資する取組とそれを支えている方々を表彰するもので、地域との共生・共創に基づく太陽光発電が全国に広がるように、太陽光発電の地域貢献の可能性について、多くの方に認知していただくことを目的としています。

「**リサイクル事業特別賞**」は、太陽光発電事業のライフサイクルにおいて、リサイクルの重要性が増すことに鑑み、**本年度より新たに設けられ、その第一号として当社の『熱分解及び高度選別処理による、太陽光パネルの板ガラスへのアップサイクルを可能とした高度リサイクル事業』**が他の3件と共に受賞いたしました。

【事業内容について】

本事業はFIT制度（再生可能エネルギーの固定価格買取制度）が始まる前の2010年より、北九州市等と連携してスタートさせたプロジェクトであり、**日本初の「連続式EVA熱分解処理炉」（処理能力年間9万枚）（※1）をNEDO事業で開発、また高度選別ラインを環境省実証事業で早稲田大学と共同開発し、アルミ・銅・シリコンセル（銀）・ガラスの資源循環を可能としております。**特に太陽光パネルの重量の6割強を占めるガラスについては、板ガラスの原料としてアップサイクルを実現しています。今後は、この北九州発の技術を、国内はもとより海外にも展開していく計画です。現在、当社は、近隣のOAリサイクル工場と合わせ、営業スタッフ、技術スタッフ、運転員等、北九州市若松区響町エリアにて20名以上雇用しておりますが、廃太陽光パネルの今後の受け入れ増加に対応するため、さらなる要員増強を検討しております。

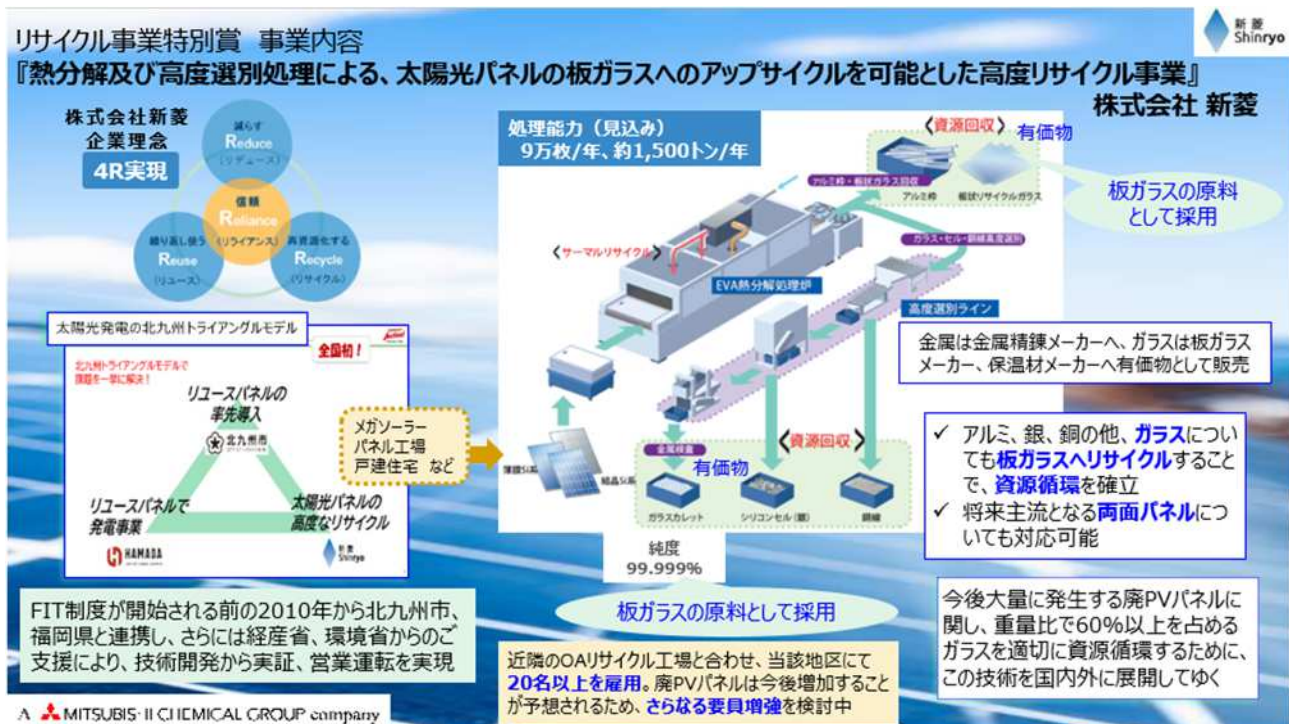
また、本事業は、2023年10月に北九州市より「北九州エコタウン事業」として認定（※2）され、さらに当社は太陽光パネルのリユース・リサイクルを官民一体で進め、地域全体で太陽光発電の導入拡大と大量廃棄の課題を同時に解決する全国初の「太陽光発電の北九州トライアングルモデル」（※3）にも参画しています。

このように、太陽光パネルリサイクルに関する技術力と、地域との共生・共創の取組を高く評価いただき、「リサイクル事業特別賞」を受賞いたしました。当社は今回の受賞を励みとし、今後大量に発生する廃太陽光パネルに関する社会課題に対応するために、更にリサイクル技術を向上させ、地域との連携を深めて、更なるサーキュラーエコノミーの実現に向けて取り組んでまいります。

【お問い合わせ先】

株式会社新菱 サークュラーエコノミー事業部門
企画管理本部 企画部 西澤、佐藤
電話：093-643-2780

【事業概要】



<注 釈>

（※1）連続式EVA熱分解処理炉：

ガラスやシリコンセル等、太陽光パネルの素材を強固に接着するための樹脂であるEVA（エチレン酢酸ビニル共重合体）を熱分解して分離するための装置で、当社工場ではその処理を連続して行うことができます。

（※2）北九州エコタウン事業認定：

循環型社会、低炭素社会の構築に寄与するもので、北九州市が新規性・独自性を有する事業を認定し、環境産業の活性化を図る取組です。北九州市は、平成9年に国から第1号エコタウン事業の承認を受け、リサイクル企業の集積が進み、我が国最大級のリサイクル産業拠点に成長しています。

（※3）太陽光発電の北九州トライアングルモデル

北九州市では、地域全体で太陽光発電の導入拡大と大量廃棄の課題を同時に解決すべく、太陽光パネルのリユース・リサイクルを、下記の通り、官民一体で進めています。

- ① リユースパネルを率先導入する「北九州市」
- ② リユース・リサイクルビジネスのリーディングカンパニーであり、リユースパネルで発電事業（PPA）を実施する「株式会社浜田」
- ③ エコタウンを代表するリサイクル企業で、板ガラスへのアップサイクルを可能にした高度な太陽光パネルリサイクルを実施する「株式会社新菱」